

1 開催日時・場所

2015 年 10 月 28 日～11 月 6 日
イタリア共和国ミラノ市、ミラノマリオットホテル

2 日程

10 月 28 日 (水) (am) 認定機関審査員等能力 TF 会合、(pm) 製品認証機関認定作業グループ会合
10 月 29 日 (木) IAF/ILAC 合同偽認証書 TF 会合
10 月 30 日 (金) IAF 専門委員会 (TC)、IAF 認定機関間情報交換会合 (ABIEG : 非公開)
10 月 31 日 (土) IAF 専門委員会 (TC)
11 月 1 日 (日) IAF 相互承認委員会 (MLAC)
11 月 3 日 (火) IAF/ILAC 合同開発支援委員会 (JDSC)
11 月 4 日 (水) IAF 総会
11 月 5 日 (木) ILAC/IAF 合同総会, 署名式
11 月 6 日 (金) IAF 総会

3 IAF 総会等概要報告

3.1 出席者

IAF 総会には認定機関、認証機関、ユーザ代表等、10 名以上の代理出席を含む約 130 名が出席し、定足数を満たすことで総会として成立した。また、総会前に開催される各委員会、作業グループ会合 (WG)、タスクフォースは 20 を超え、特に、製品認証 WG には、過去最大の 80 名超が出席と、年々、出席者数が増加している。日本からは IAJapan から吉田が出席、その他認定機関として JAB、JIPDEC が、また、認証機関として JACB が出席した。

3.2 IAF 加盟認定機関及び IAF MLA 署名機関

昨年 10 月に開催された IAF 総会からの変化として、4 認定機関が加盟し、また、2 機関が MLA 署名認定機関の地位を得た。

新規加盟認定機関 : NAA (北朝鮮)、BCSA (ベラルーシ)、IARM(マケドニア)、SEMAC (モロッコ)

新規 MLA 署名機関 : IARM (マケドニア)、ONAC (コロンビア)

また、新たな認定サブスコープとして、Global G.A.P が全 MLA 地域機関 (PAC、EA、IAAC) に認められた。

なお、2015 年 12 月現在の会員数は以下のとおりである。

- 加盟認定機関 : 73 機関 (67 カ国・経済地域)
うち、MLA 署名認定機関 : 62 機関 (57 カ国・経済地域)
- アソシエイト会員 : 17 機関 (JACB 等の認証機関グループ、スキームオーナー等)
- 地域協力機関 : 6 機関 (AFRAC、IAAC、ARAC、EA、PAC、SADCA)
うち、MLA 署名地域協力機関 : 3 機関 (IAAC、EA、PAC)
- オブザーバ機関 : 2 機関 (SADCAS、LNCMS)

3.3 役員の改選

今回、IAF 執行部の主要なポストのほとんどが改選となり、新たなメンバーによる執行体制に移行することとなった。

- 新議長 : Xiao Jianhua (CNAS (中国))
- 副議長 : Emannuele Riva (ACCREDIA (イタリア))
- 理事 (ユーザ等代表) : Sheronda Jeffries (Quest Forum)
- 理事 (High Income Economy) : Geir Samuelsen (NA (ノルウェー))

3.4 各委員会委員長の改選等

各委員会の委員長の改選が行われ、以下のメンバーとなった。（再選を含む）

- 専門委員会（TC）：Ekanit Romyanon（NSC（タイ））（再選）
- 広報マーケティング委員会（CMC）：Jon Murthy（UKAS（英国））（再選）
- ユーザ諮問委員会：Sheronda Jeffries（Quest Forum）
- MLA 委員会：Norman Brunner（AA（オーストラリア））
- 開発支援委員会（DSC）：Andrea Barroso Melo Monteiro de Queiroz（CGCRE（ブラジル））

3.5 予算、組織等

2014年の決算について了承された。また、2015年及び2016年予算は支出超過傾向にあるものの、2016年予算については特段の議論はなく、了承された。今後、この支出傾向が続く場合、2018年会費の見直しが必要である点が今後の懸案事項として提示された。

3.6 その他の検討事項等

① 国際規格改正に伴う移行及びその期間

情報セキュリティマネジメントシステム関係

ISO/IEC 27006:2015 発行に伴う移行期間を2年（2017年9月30日まで）とした。

医療機器マネジメントシステム関係

ISO 13485:2003 の改正版の発行日から3年とした。

② マネジメントシステム認証機関による非認定認証書の発行について

マネジメントシステム認証に関し、認定機関は認証機関との間で、認証機関が認定された範囲において非認定認証書を発行できないように、法的拘束力のある契約を締結することを必須とする決議をした。なお、移行期間は1年とすることとしている。

4 作業グループ、委員会等報告

4.1 IAF 製品認証作業グループ 会合（共同議長：Paul MOLISKI（Intertek）、吉田（IAJapan））

- ① ISO/IEC 17065 への移行に関し、3地域機関（EA, IAAC, PAC）のアンケート調査結果を提示し、IAF GD5に取って代わる文書作成に係る議論を行った。EA側は同文書の開発を強く望む一方で、IAACは不要という結果、また、PACでは意見は半々であり、作成する方向での結果となった点について、EA側から、より深掘りした形でのアンケート実施の提案があったため、その方法等について、今後、調整することとした。
- ② PACで作業を開始する予定としている、製品認証機関の認定スコープ記載事項に関するガイダンス文書について、EA、IAACにおいても同様の作業が必要と考えていること、また、今後の作業については情報交換等を行い、可能であれば、現在改正中のISO/IEC 17011に提案することも視野に入れるべきとの示唆があるなど、必要性が特定され、また、その期待が大きいことが確認された。
- ③ IEC-ILAC-IAF 運営委員会の会合結果内容が提供され、認定機関とIEC CBスキームとの合同審査が200ケース中8ケース止まりであった等、今後の改善が必要等の紹介があった。また、IEC-REプログラムでは、認証機関に対してはIAF MLA署名機関による認定を、また、試験所に対しては、ILAC MRA署名機関による認定を要求することを現行案で示しているとの報告があった。
越境認定の現状を把握すべくILACメンバーを対象に調査を進めていくことが確認された。
- ④ その他、Global G.A.P、IECEE、ISO/IEC TR28（サービス認証スキーム）に関するプレゼンが行われ、情報交換を実施した。
- ⑤ ILACメンバーが技術的ではない理由でILACの規約に準拠しなかった場合のメンバーシップの一時停止や取消しをどのように取り扱うか議論された。
- ⑥ ISO/IEC 17011の改正状況及び今後の進め方について報告があった。

4.2 IAF 専門委員会（TC）会合（議長：Ekanit Romyanon（NSC））

- ① 136名が出席した。共通項目として、今後のWG、TFの運営方法、改善点について議論した。

- ② マネジメントシステム認証関係の必須適用文書（MD2、MD4）改正のため、2つのTFを設置することとした。その他、ISO 13485 改正に係る移行期間について審議。（3.6②参照のこと）
- ③ 製品認証関係では、MD12 文書（越境認定のための認証活動の審査方法）の改正作業が必要であることが特定された。

4.3 IAF MLA 委員会（MLAC）会合（議長：Steve Keeling（JAS-ANZ））

- ① 56名（うち10名がオブザーバ）が出席。
- ② 現在のMLA 署名文書はISO/IEC Guide65 からISO/IEC 17065 に変更となっていないため、今後対応が必要であることの説明があった。
- ③ 新たなサブスコープ（エネルギーマネジメント、GFSI）について議論。
- ④ その他、FCL(Foreign Critical Locations)データベースの開発状況やAB間の不整合に関する合同作業グループの検討結果等が示された。

4.4 IAF/ILAC 合同開発支援委員会（IAF / ILAC JDSC）会合（IAF 側議長：Andrea Barroso Melo Monteiro de Queiroz (CGCRE)）

2015年の各地域（アフリカ、アジア、ラテンアメリカ等）への活動支援状況の報告及び今後の活動予定について、UNIDO、PTB、IFCC、WHO等からのプレゼンを交えて検討し、今後、一層の協力を続けつつ、その効果を確認していくこととした。

5 今後の会議開催予定

- IAF 中間会合（製品認証認定WG、専門委員会（TC）等）：2016年3月30日～4月2日
フランクフルト（ドイツ）
- IAF 第30回年次総会等：2016年10月26日～11月4日
ニューデリー（インド）

以上